



SUPERBIKE RACE in SUZUKA

AII JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

8

2023 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦
第55回 MFJグランプリ

- 三重県
- 鈴鹿サーキット
- 1周 = 5.821km
- クラス / JSB1000
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 #9 関口 太郎

RACE 1

10月14日(土) 天候: 晴れのち曇 コース: ドライ
予選 10番手 (タイム: 2分06秒589)
決勝 9位

RACE 2

10月15日(日) 天候: 晴れのち曇 コース: ドライ
予選 12番手 (タイム: 2分07秒191)
決勝 10位

2023年 シリーズランキング 12位

観客動員数: 10,200人 (2日間合計)

萬
マソマリ

萬福

三明電氣工業
SANYU

KAWAFUL
TECHNO

FUJITA



Fujimoto Electric Industry

府中不動産

岡崎機工株式会社

ファミリー ロッジ
旅籠屋

WillWay
e-Beluga

Burgundy

YONE MOTORS

BRIDGESTONE



SUPER NOW J-TRIP S&E PRECISION RACING MAX

BEEPRESSO alpinestars 功利樂國 HYOD Motorcycle CS2

JARI 2輪かん エンジニアリング

SOG バイク館

CI DESIGN ADVANTAGE

SHORAI

RK

NGK

Po

INOMATA

Arai HELMET

WIND JAMMERS

PLUSμ

TCM

MDF

RS

elf

ARAI

FIXFIT

Team PLUS ONE

最高のレース内容で2023年を締めくくる

三重県・鈴鹿サーキットで最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権シリーズ。この最終戦鈴鹿に閑口はかけていた。SANMEI Team TARO PLUSONEとしてJSB1000クラスに参戦するようになって、4シーズン目。その最後のレースにアルファレーシングからキットエンジンを注文し、エンジニアのジュリアン・ペニツを鈴鹿8耐に統いて召喚。鈴鹿8耐直後から手配していたが、キットエンジンの到着はギリギリのタイミングとなっていた。これに合わせたマフラーをノジマエンジニアリングで製作してもらい最終戦の準備を整えることができていた。



最終戦は例年通り事前テストではなく、木曜日の特別スポット走行から始まったが、初日は確認項目が多く、実質は金曜日からのスタートとなっていた。足回りは、鈴鹿8耐ベースからスタートし、金曜日の1本目で2分08秒376をマーク。前日よりも4秒もタイムアップしたため、足回りはもちろん、電気系のセットも大きく変更。これをジュリアンが中心になって指示していくのだが、大胆な変更は、セッション毎、レース2まで続いている。2本目では、閑口本人も驚く2分07秒33をマークし、8番手につけて2日目を終えていた。この流れなら公式予選で2分06秒台も入れられると周りも思っていたが、閑口自身は、そう簡単なものではないだろうと予測していた。

公式予選が始まると、まずは集団の中でタイムを出そうとしたが、詰まり過ぎて思うように走れなかっただためピットイン。マシンをアジャストして出ていくと単独で2分07秒310を記録できたため、再びピットに戻りニュータイヤを履いてタイムアタックに入ると2分06秒589をマークし自己ベストを大幅に更新する。もう一度2分06秒台に入れたいところだったが2分07秒191に止ったが、それでも大きな進化だった。



土曜日の午後に行われたレース1。スタートでやや出遅れた閑口は、オープニングラップで挽回し、11番手につけていた。前後にヨシムラやホンダのサテライトチームのライダーがいる集団の中で周回。ラップタイムは2分07秒台だったが、そのペースについていくことができていた。一度、シフトミスがあり少し離されてしまったが、追い上げていくと2分06秒889を記録。最終ラップにトップ争いをしていたヤマハファクトリーの2台が転倒したこともあり、2つポジションを上げ9位でフィニッシュした。

レース2に向けてもジュリアンは大きく仕様を変更する指示を出す。朝のウォームアップ走行は朝方まで降っていた雨のためウェットコンディション。決勝はドライになることが分かっていたため出走せず。ここまでくればジュリアンを信じて、今シーズン最後のレースに臨んだ。



中須賀選手がレース1のケガで欠場したため一つ繰り上がり12番手グリッドからスタート。今度はスタートを決めるスプーンカーブで選手をかわし、8番手でオープニングラップを終える。その後の1コーナーでは直後で秋吉選手と清成選手が接触転倒。このアクシデントでセーフティーカーが入ってしまう。リストア直後は慎重になっていたところ2台にかわされ10番手に下がるもの、そこから2分

07秒台にペースアップし前の集団についていく。そのまま10位でゴールしたが、セーフティーカーがなければ、さらに上位を狙えたはずだ。SANMEI Team TARO PLUSONEとして最高のレース内容で2023年シーズンを締めくくった。



今年のプランとして最終戦鈴鹿にキットエンジンを投入し、ドイツのアルファレーシングからジュリアンに来てもらうことにしていました。そのため鈴鹿8耐にもジュリアンに来てもらっていましたが、今回は、特にすばらしい働きをしてくれました。自己ベストを大幅に更新でき、アベレージも2分07秒台で回ることができましたから。エンジンは速くなりましたが、足回りはノーマルでも、あそこまで走れるというインパクトを与えられたと思います。今シーズンもいろいろなことがありました。無事にシーズンを終えることができました。これも三明電気工事様を始め、応援してくださっているスポンサー、ファンの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。来シーズンも引き続き応援よろしくお願ひいたします。

閑口 太郎

